

## 第2章 県民の健康の現状

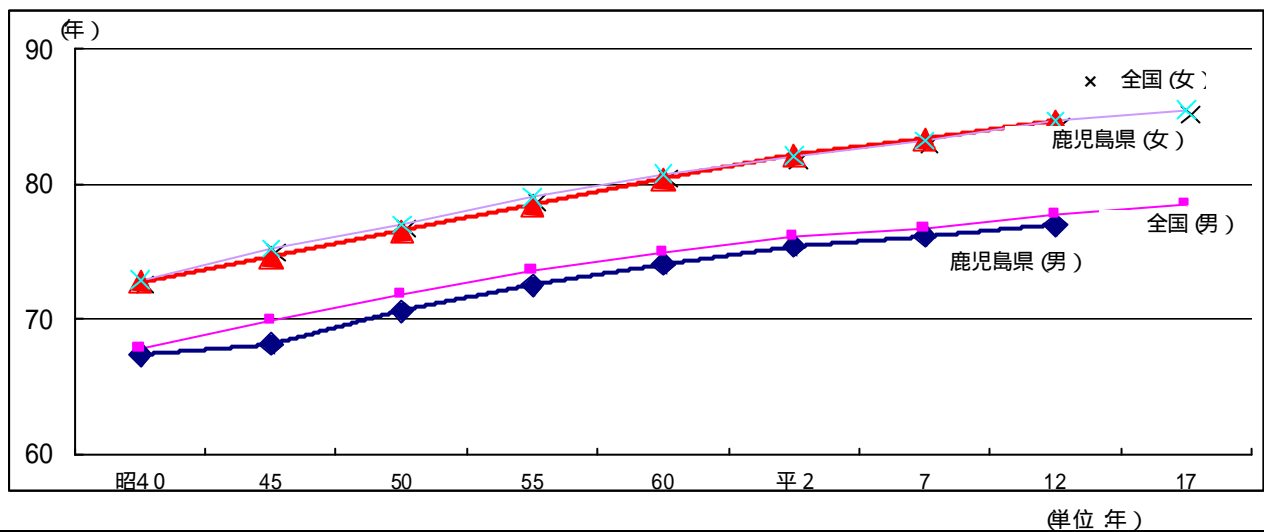
### 1 平均寿命

#### 男性は全国平均より短く、女性は中位を維持

平均寿命は全国平均と同じように男女ともに年々延びています。しかし、全国での順位をみると、女性については昭和60年に38位の後は、平成7年24位、平成12年26位と中位に位置しているものの、男性については昭和40年の22位をピークに、その後は40位前後で推移しています。

また、男女の平均寿命の差は、昭和60年が6.25年、平成7年が7.23年、平成12年が7.7年と年々開いています。

図1 平均寿命の推移



	昭40	45	50	55	60	平2	7	12	17
本県男性	67.36	68.14	70.54	72.53	74.09	75.39	76.13	76.98	
全国での順位	22	42	43	43	43	40	39	42	(全国値 78.53)
本県女性	72.71	74.62	76.53	78.44	80.34	82.10	83.36	84.68	
全国での順位	27	35	34	43	38	24	24	26	(全国値 85.49)
本県における平均寿命男女差	5.3	6.5	6.0	5.9	6.3	6.7	7.2	7.7	

資料：厚生労働省「都道府県別生命表」

### 2 主要死因

#### 死因の約6割が三大生活習慣病

平成15年の本県における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患のいわゆる三大生活習慣病による死亡者数の死亡者総数に占める割合は、57.3%（全国平均59.2%）です。

これは、計画を策定した平成12年の57.4%（全国平均59.2%）と比較すると、ほとんど変化していません。

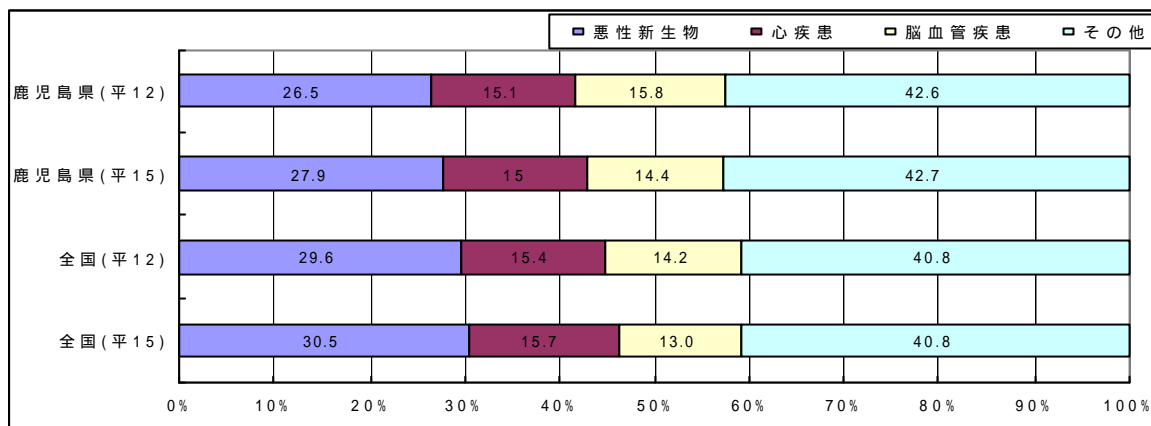
また、本県における主な死因の推移をみると、図3のとおり悪性新生物は一貫して増加しており、心疾患及び肺炎は緩やかな増加、自殺は横ばいの状況にあります。

なお、悪性新生物の部位別死亡者数は、図4のとおり平成12年度の計画策定時と同様に

肺がんがトップであり、胃がん、肝臓がんが続いています。

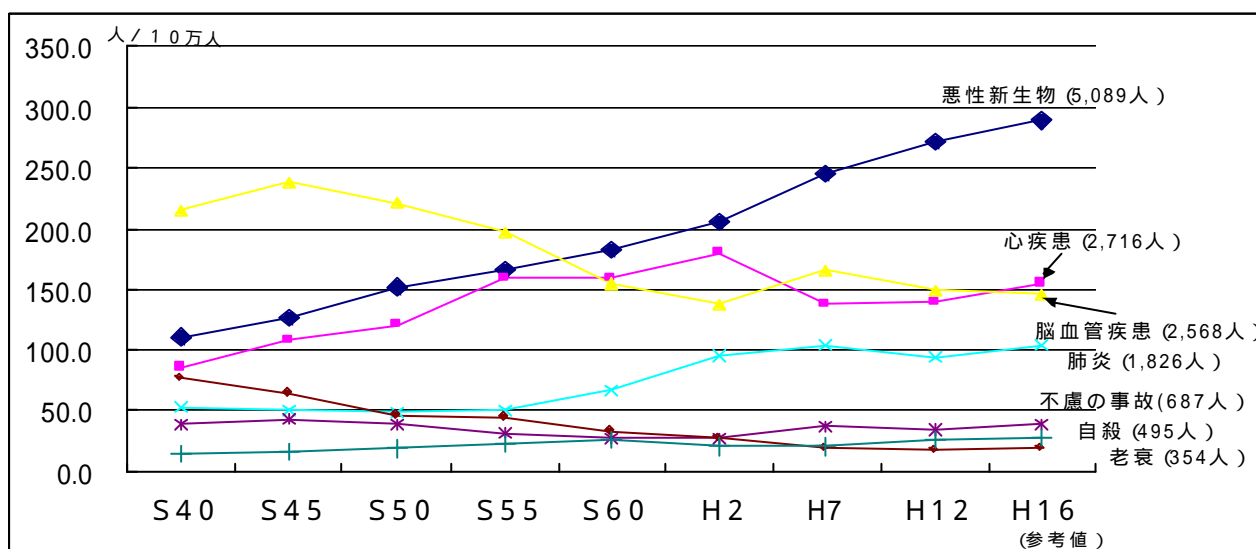
また、人口の年齢構成を加味した保健指標である標準化死亡比（全国を 100 とする）で見ると、本県は全国に比べて、40～50 歳代男性は脳血管疾患、自殺の死亡比が高く、女性は脳血管疾患が高くなっています。

図 2 三大生活習慣の死亡割合



資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」

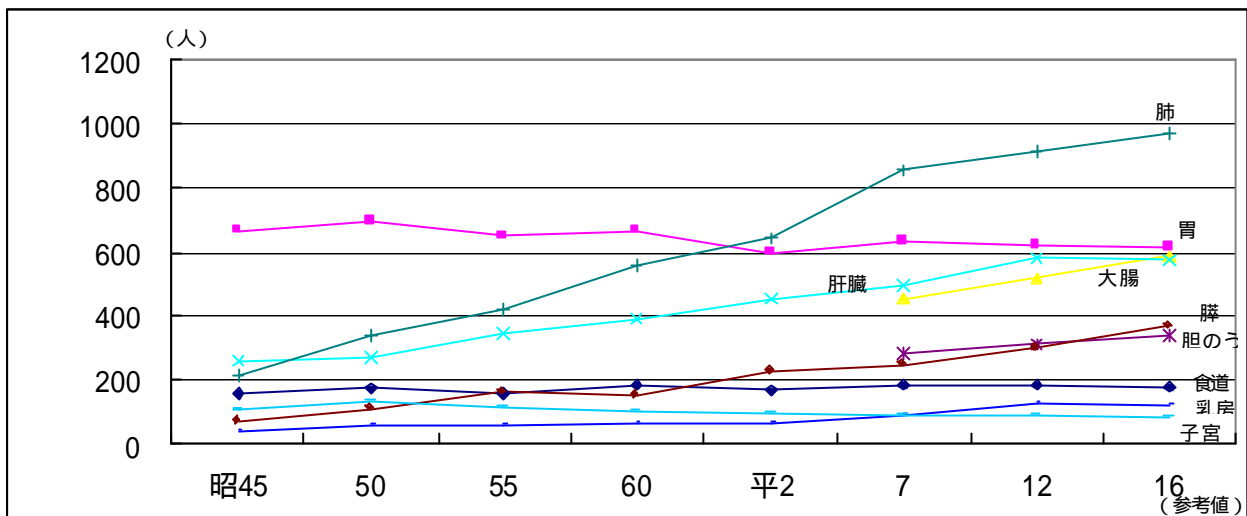
図 3 主要死因の推移



資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」

( ) 内は平成 16 年度の本県の死亡者数

図4 悪性新生物部位別死亡者数の推移



資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」

表1 男女別標準化死亡比（平成12～16年）

死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	自殺
男性	97.1	91.6	107.6	105.3	109.3	119.7
女性	91.7	91.1	107.6	102.5	95.6	92.5

SMRの算出については平成12～16年の5年間の死亡総数を観察値として用いた

表2 男女別年代別標準化死亡比（平成12～16年）（全国を100とした指標）

	男性					女性				
	40代	50代	60代	70代	80代～	40代	50代	60代	70代	80代～
悪性新生物	98.0	108.6	96.9	95.8	95.3	93.3	95.7	89.7	90.0	92.6
心疾患	110.8	104.4	89.0	90.0	89.0	101.6	114.2	99.7	91.1	89.9
脳血管疾患	119.6	142.3	109.4	107.4	102.6	113.6	145.2	126.8	112.8	103.4
肺炎	119.5	150.1	104.8	103.4	104.9	81.8	124.9	121.9	100.7	102.1
不慮の事故	129.0	130.7	123.1	108.0	85.6	124.1	119.1	114.6	96.8	84.9
自殺	124.1	123.6	124.4	116.0	95.4	85.2	115.5	105.1	104.0	72.8

SMRの算出については平成12～16年の5年間の死亡総数を観察値として用いた

### 3 早世（早死）

#### 依然として多い早世（早死）

本県の65歳未満の死亡数について、平成16年の統計で見ると、男女ともに全国よりも高く、主な死因別の死亡率について全国平均と比較してみると、自殺、脳血管疾患、不慮の事故については、全国を上回っています。

特に、男性の場合、悪性新生物、自殺、心疾患、脳血管疾患、不慮の事故と死亡順位の第5位まですべて全国平均よりも高く、女性の場合、第2位の脳血管疾患、第5位の不慮の事故が全国平均を上回っています。

表3 65歳未満の死因順位(平成16年)

順位	本県			全国		
	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)
	総数	2,724	203.5	総数	193,710	191.1
第1位	悪性新生物	957	71.4	悪性新生物	77,013	75.8
第2位	自殺	329	<u>24.6</u>	自殺	22,548	22.2
第3位	心疾患	290	21.4	心疾患	22,282	21.8
第4位	脳血管疾患	251	<u>18.5</u>	脳血管疾患	15,635	15.4
第5位	不慮の事故	242	17.3	不慮の事故	13,577	13.0

資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」(下線は本県の死亡率が全国に比べて高いものを示す)

表4 男性の65歳未満の死因順位(平成16年)

順位	本県			全国		
	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)
	総数	1,880	285.3	総数	131,518	257.2
第1位	悪性新生物	605	<u>91.8</u>	悪性新生物	46,499	90.9
第2位	自殺	263	<u>39.9</u>	自殺	17,224	33.7
第3位	心疾患	221	33.5	心疾患	16,909	33.1
第4位	不慮の事故	171	<u>26.0</u>	脳血管疾患	10,550	20.6
第5位	脳血管疾患	161	24.4	不慮の事故	10,078	19.7

資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」(下線は本県の死亡率が全国に比べて高いものを示す)

表5 女性の65歳未満の死因順位（平成16年）

順位	鹿児島県			全国		
	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)	死因	死亡者数	死亡率 (人口10万対)
	総数	844	124.2	総数	62,192	123.7
第1位	悪性新生物	351	51.7	悪性新生物	30,385	60.5
第2位	脳血管疾患	87	12.8	自殺	5,324	10.6
第3位	心疾患	66	9.7	心疾患	5,168	10.3
第4位	自殺	66	9.7	脳血管疾患	5,069	10.1
第5位	不慮の事故	60	8.8	不慮の事故	3,072	6.1

資料：鹿児島県保健福祉部「衛生統計年報」（下線は本県の死亡率が全国に比べて高いものを示す）

#### 4 生活習慣病

##### メタボリックシンドロームリスク保有者の増加

BMIが25以上の者で、さらに高血圧、高血糖、高脂質の2項目以上に該当する者をメタボリックシンドロームリスク保有者（腹囲を測定していないため、BMIで代用）とした場合、本県のリスク保有者は、全国平均よりも男女ともに高い割合にある。

表6 メタボリックシンドロームリスク保有者 平成16年度 政府管掌健康保険 生活習慣病予防検診受診者の結果

		受診者	保有者
鹿児島県	男	33,353	4,780(14.3%)
	女	16,382	748(4.6%)
全国	男	1,188,131	286,051(12.5%)
	女	2,283,581	47,373(4.0%)

##### メタボリックシンドロームとは

肥満、なかでも内臓脂肪型肥満の人が、脂質代謝異常（高脂血症）や血圧高値（高血圧）、高血糖（糖尿病）のいずれか2つを持ち合わせている状態をいいます。

##### メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の診断基準

内臓脂肪蓄積（腹囲）に加え、下記の2つ以上の項目に該当する場合

内臓脂肪（腹腔内脂肪）蓄積		腹囲 男性：85 cm以上 女性：90 cm以上
項目	血中脂質	血 圧
基準	中性脂肪（TG）値 150mg/dl以上 HDL コレステロール値 40mg/dl未満	収縮期血圧値 130mmHg 以上 拡張期血圧値 85mmHg 以上
		血 糖
		空腹時血糖値 110mg/dl以上